



南高SSHだより

第1号
H30.8.3
新潟南高等学校
SSH総務部発行

第Ⅳ期SSH事業スタート

新潟南高校SSH事業は昨年度で第Ⅲ期が終了しました。平成27年度の間評価ヒアリングでいただいたご指摘に対する改善案が評価され、今年度から新たに5年間の第Ⅳ期指定を受けることができました。昨年度（第Ⅲ期5年目）より取り組んできた大きな改善点として「課題研究の充実」、「全校で取り組む探究活動」、「アメリカ研修と課題研究との関連付け」があります。

今年度から、1学年の新たな取り組みとして「江風探究ユニット」という活動を始めました。この活動は、新潟市の課題解決をテーマとして研究を進め、その方法を提案する活動です。資料を読み解く能力、情報収集・活用能力を段階的に高めることにより、すべての教育活動に繋がる能力としての探究力育成を目的としています。2年次を中心として進めるSSH課題研究に先駆けて実施することから、2年次の学校設定科目「江風SSG」「江風SSⅡ」で進める課題研究のテーマ設定をより適切に行い、スムーズに研究を展開することにも確実に繋がるものと考えます。近い将来、全校生徒が取り組む探究活動の充実に向けた取組として、また課題研究充実のためのステップとしてSSH事業に正式に取り入れていきたいと考えています。

アメリカ研修も大きく改善を図っています。66期生より実施時期を2年次学年末とすることで課題研究の成果を持ってアメリカに行くことができるようになりました。現地で英語による成果発表とディスカッションも実施しました。さらに今年度より研修の名称も「江風グローバル研修」と改め、67期生は目的別に行程を定めた2つのコース（テクノロジーコースとネイチャーコース）に分かれ、よりねらいを明確にした研修とする予定です。普通科も含めたすべての生徒が課題研究に取り組むことにより、普通科の生徒にも参加の道が拓かれたことも大きな改善といえます。

一方で、運営指導委員の方々からは様々な課題を指摘していただいています。課題研究の研究内容の充実に関するもの、研究の進め方に関するもの、ポスター発表の環境に関するものなどについて、いただいたご指摘を真摯に受け止め改善につなげていきたいと思ひます。特に課題研究の充実については、来年度から3年次の江風SSⅢと1・2年生の江風SSⅠ、江風SSⅡの時間割に工夫を加え、学年間の連携を強化することで、より効果的に研究を進められるようにしていきます。また、2年次12月の中間発表と3年次の英語発表会の間にも、英語による発表のための指導に偏ることなく、確実に課題研究を進めるためのスケジュール管理を徹底していきたいと思ひます。



新潟県立新潟南高等学校 校長 石井一也